日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２３期・６巻　２０１７年９月号　ＮＯ．１９７

仲間と仲間を結ぶ機関誌

れいほう

Susono Reihou Alpine Club

「夏山・夏空・夏雲・夏風・夏花」

山行ＮＯ．１７４８
０８月０１日（火）
北海道・夕張岳

イ．９月度・例会報告　　９月３日（日）　生協会議室　１５：３０～

・現在、会費を集めています。
・会名ワッパペンが出来て配った。・・・全部で１０００－＝Ｋさんに支払い。
・Ｍさん、膝が不調。しばらく静養します。
・Ｉさん、山に行けるようになりました。

ロ．県連の報告

「リニアで南アルプスを壊さないで…」現地集会に参加して

報告　斉藤富夫・県連理事長

長野県大鹿村で開催された「リニアで南アルプスを壊さないで」現地集会（８月５日 土）に静岡県連盟の仲間と共に参加した。大鹿村では既にトンネル掘削工事が始まっている。
参加者：竹本会長（あべっ子）江藤、原田、志村、毛利、小林敏、小林紀（以上 静岡労山） 内田（ＮＭＣ）、山崎、木原、古本（焼津山の会)、斉藤、村上恵（あさぎり）の１３名。

静岡県からは他に「リニア・ストップ！訴訟」事務局長の服部氏、日本山岳会静岡支部前会長の大島氏が参加された。大阪、愛知などからも参加があり、総勢は５０名を超えた。
集会は、始めに元大鹿村村長の中川豊氏が「大鹿村を訪れた登山者たち」と題して講演。ウエストンやナウマン、大倉喜八などと村の結びつきを語った。次いで、渓谷探検家の成瀬陽一氏が「南アルプスの遊び方」を講演。

２０年間、沢登やアイスクライミングに大鹿司会者と対話形式で講演する中川元大鹿村村長村に通ったことや勤務先のフリースクールの生徒を今年の冬大鹿村に案内し、アイスクライミング で遊んだ時の話では“遊んで遊び尽くした果てに何か掴んでくれれば…”と自分の若き日を振り返り ながら思いを語った。
地元大鹿村で「大鹿村の百年先を育む会」の女性４名が、パタゴニアから送られてきたＴシャツにリニアはいらないのプリントをして販売している事や車に貼るシールを考案し、得た利益を活動の資金としていること。　和牛繁殖農家で水が枯れる事を心配している。
農産物の戸配しているがリニアなくても大鹿村は生きて行ける。等々語り大鹿村の女性 のリニア建設に反対する熱い思いを感じる事が出来た。

服部隆氏が裁判の経過を、大阪の北側氏が「大阪ストップリニア通信」を発行しているが関心は薄いこと。飯田市の「リニアを考える会」米山氏の残土置き場の問題。静岡労山の江藤氏がリニアは原発３基分にも匹敵する電力を消費すると言われて事や人口減少化の中で採メモをとり熱心に聞き入る参加者採算の合わない事を発言。竹本氏がタイガーマスクの替え歌でリニア建設反対を訴えるなど会場は盛り上がった。

集会後、小渋川の橋元に「リニア建設反対」の大看板設置をみんなで行い解散となった。夜は少し離れた部落の民宿に９名で宿泊。　おかみさんから村人の７～８割くらいは反対しているが意思表示をしにくくなっている事などの話を聞いた。

『大自然の静かな村』が売り物の大鹿村もトンネル残土搬出に１７００台／日ものダンプカーが走行し喧騒きわまりない村に変質しようとしている。これは単なる目に見える物質的な動きに留まらず、村を２分し、村民のこころをも喧騒に巻き込む問題でもある。
若者は村を出て行き放置される耕作地も目立つ。そんな中、リニア建設で、村にお金が落ち話が出され、村が潤うと一部の人達は心を動かされる。
南アルプス２５ｋｍをトンネルで貫くリニアは大鹿村で一時的に地表に出る。時速５０　０ｋｍ でトンネルを出る時の騒音はものすごいに違いなく、先のダンプの話も重なり、大自然の中の 静かな大鹿村は無くなる。大看板の設置。しあわせとはどっちの選択をを指すのだろうか。
東京ー名古屋は２０２７年に開通する。その時に答えは出る。 これは大鹿村に限られた話ではないだろう。日本のアチコチで、こんな場面に直面している町や村がある事は想像に難くない。利益誘導で、地元にリスクを背負わせるのは原発の例を出すまでもなく権力者の常套手段であるから。

翌日は、竹本会長と静岡労山のメンバーは成瀬氏と共に小河内川の遡行に出かけ、残った我々は大鹿村中央構造線博物館で、この構造線研究の第一人者といわれる川本和朗学芸員から１時間近くにわたって説明を受けた。その後、リニアが突っ切る と言う中央構造線（今から１億年近く前、未だ日本列島がアジア大陸の縁辺にあった白亜紀後期のに出来たものといわれる関東から九州迄１，０００ｋｍ以上も列島を縦断する断層）の露出している安康（あんこう）露頭を見学した。

長谷村に通じる 細い国道を車を走らせながら１０年後も変わらず静かな村であって欲しいと願いながら大鹿村を後にした。

集会の様子

安康（あんこう）露頭

ハ・山行実績

１．０７月３１日（月）～８月７日（月）	夏山合宿・２＝北海道・夕張岳、暑寒別岳、幌尻岳、後方羊蹄山（しりべしやま）＝２名
２．０８月０７日（月）～０８日（日）	個人山行＝荒川三山
３．０８月１３日（日）	リバー・ウォーク＝狩野川本流＝３名
４．０８月１９日（土）	（雨中止）
５．０８月１８日（金	個人山行＝毛無山　　１名
９．０８月２０日（日）	富士山・宝永山２３５２ｍ峰　　３名
10．０８月２６日（土）	富士山・宝永山２３５２ｍ峰　　３名
11．０９月０２日（土	パノラマ台（雨中止）
12．０９月０３日（日）	個人山行＝乾徳山

ニ・今後の予定

０９月０９日（土・予備日１０日）	パノラマ台
０９月１６日（土）	ハイクの日＝富士山・富士吉田口 お中道・・・キノコハイキング **お中道でキノコを採って食べる！！**
０９月１９日（火）～２１日（木）	個人山行＝熊野古道・奥駈け 山上ヶ岳（１７１９ｍ）
０９月２３日（土）	個人山行
０９月３０日（土・予備日１日）	秋山訓練＝大菩薩嶺
１０月０３日（火）～０５日（木）	個人山行＝谷川岳・馬蹄形縦走 土合～白毛門～笠ヶ岳～朝日岳～蓬峠ヒュッテ（泊）～茂倉岳～谷川岳～西黒尾根
１０月０７日（土）	個人山行
１０月１４日（土）～１５日（日）	秋山合宿 １４日＝小川山登山（民宿泊） １５日＝甲武信岳登山
１０月２８日（土）	ハイクの日
１０月２９日（日）	県連＝安全登山講習会 車１台＝５名予定・・・車代は会負担

「山の天気の基本と気象遭難を防ぐ天気図見方」ヤマテン・河野卓朗氏

清水区役所「ふれあいホール」１３：１０～

１０月３０日（月）～１１月２日（木）	個人行事＝熊野古道・中辺路
１１月０４日（土）	個人山行
１１月１１日（土）	定例ハイク
１１月１９日（日）	東部ブロック交流ハイク＝甲斐・日向山
１１月２５日（土）	個人山行

１２月０２日（土）　　定例ハイク
１２月０２日（土）～０３日（日）　　女性と全国登山集会＝国立女性教育会館
１２月０９日（土）
１２月１６日（土）　　忘年山行
１２月２３日（土）
１２月２８日（木）～３０日（土）　　仙丈ヶ岳・小仙丈尾根（リベンジ山行）

ホ・山行報告

裾野麗峰山の会山行報告書

文・ＫＨ、ＧＴ　　写真・ＧＴ

山行番　ＮＯ．１７４８-１
日　時　２０１７．０７．３１（月）～０８．０１（火）晴れ
山　域　北海道・夕張岳（１６６８ｍ）
コース　３１日＝三島駅７：０７－東京着８：００—東京発８：２０—新函館北斗駅着１２：２２—室蘭本線・北斗駅発１２：３４－南千歳駅着１５：３０—南千歳レンタカー発１６：００－道東自動車道—夕張ＩＣ—夕張市・運動公園第二球技場（テン泊）

０１日＝林道ゲート４：５９—夕張ヒュッテ７：０６－冷水コース－馬の背分岐８：２８－望岳台９：１０—前岳湿原木道９：４７－ガマ岩—吹き通し（ユウバリソウ）１０：３９—金山コース分岐１０：４１－夕張岳１１：００～２９—冷水コース分岐１４：０９—ゲート１６：１７—深川留萌自動車道・秩父別ＰＡ（テン泊）
標高差　上り＝林道ゲート約３４０ｍ～夕張岳１６６８ｍ＝約１３２８ｍ
　　下り＝　　〃
所要時間　上り＝約５時間、下り＝約４時間
参加者　ＧＴ，ＫＨ

延々と続く、ヒグマの糞

久しぶりに北海道遠征だった。最初に行ったのは、１９７５年８月９日～２１日。当時は、青函連絡船で北海道に渡り、札幌駅前で路上宿泊した。そのころは、いわゆる「カニ族」と呼ばれる、若者の旅行者が多く、駅前は溢れかえっていた。
「カニ族」とは、・・・カニ族（かにぞく）とは、横長の大型リュックサックを負った旅装、およびそのような出で立ちの者たちを指した日本での俗称であり、世界的にはバックパッカーと呼ばれる・・・（ネット）

その山行で、利尻岳・大雪山・トムラウシ岳・美瑛岳・十勝岳・富良野岳に上った。その後、１９９０年、羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳・礼文岳に上った。今回は、それ以来の北海道で、幌尻岳・後方羊蹄山・ほかを上るつもりだった。
結果的には、夕張岳・暑寒別岳・後方羊蹄山・幌尻岳（チロロコース＝二ノ沢・標高１０００ｍまで）だった。天気は一週間晴れ。ヒグマは、夕張岳の登山道に結構新しいものが１７山（個というより、「山」がふさわしい）で一番。ほかは殆どなかった。

クマのほかに問題はアブ。メクラアブと呼ばれるもので、大きくはないが、刺されると２～３日、モーレツに痒い。厚手のズボンでないと、上からも食いつく。蚊はいなかった。昼間の気温は高いが、湿度が低いのでカラッとしている。
花は夏から秋花が良かった。本来、夕張岳＝ユウバリソウ（ウルップソウの白花みたいの）、暑寒別岳＝マシケゲンゲ（オヤマノエンドウの仲間）を見たかったが、既に時期が遅く、双方とも種状態だった。見るなら、６月下旬から７月上旬。ほか、食べるものは美味しいものが多かった。ただ、刺身は良くない。
テント場は、流石は北海道。一張＝１０００－以内で清々とした所だった。温泉は、よりどりみどりである。
今回は、全てテント泊で荷物が多かったので、あえて新幹線で行った。結果は正解だった。新幹線は、移動距離が少なく、重荷は楽だった。短期間なら、ヒコーキがイイだろう。（ＧＴ）

新幹線・北斗

いよいよ北海道だ。道は真っ直ぐ続き、行き交う車も少ない。やっぱり北海道だ～。と言いたい所だがどうにも実感がわかない。新幹線の地続きで来たからなのだろうか。それとも本州と変わらず暑いせいか。車はクーラーを入れっ放しである。
さてさて、第一日目の出発である。夕張ヒュッテの問い合わせをした際、「昨年夏の台風被害で林道が何箇所か崩れた為、９．５Ｋ手前から通行止めになっているので、ヒュッテまでは約２時間かかります。今からでは無理だと思いますが・・・」との情報だった。それはないよ～。本来なら林道終点から２０分でヒュッテに着く予定なのに。雨は降っているし、暗くなってきたし、金谷ダムから上ろうか、それとも明日の暑寒別岳と逆にしようか、車で行きつ戻りつ思案に思案を重ねたが、最終的に２時間歩いても計画通りに上ろうという事に決め、夕張市・運動公園第二球技場にテン泊。

翌日、テン泊地から車を走らせゲート前に駐車。暗闇の中ヘッドランプで出発。「熊に注意」の看板に鈴を忘れた私にＣＬの鶴の一声「・・・」。「すみません。熊が出たら私の身体を先に食べて貰いますから」と声を落としてしょんぼり返答。道は広く歩き易い。タッタカ、タッタカ競歩で歩く。途中で出合った鹿が「こんな早くからご苦労なこってす」みたいな褪めた目で見ていた。
両側には傘より大きい「ラワンフキ」が我も我もと押合い圧し合いしている。緩やかな林道は２時間丁度で夕張ヒュッテ着。鈴が欲しかったが、勿論、ヒュッテでは販売ナシ。
林道は通行できない訳ではない。人命に関わる有事が起きたら、どうするか問題がある。７月６日、ガマ岩付近でクマ目撃情報があったと教えてくれた。管理人は主にヒュッテの大工仕事で入っていると言った。

ラワンフキ

人の良さそうなオジサンがお茶を出し迎えてくれた。管理人も林道を歩くそうだ。営林署はなかなか厳しい。コースはここから、途中まで２コースあるが、冷水コースを勧められた。こちらは藪が少なく上り易いとのこと。

夕張ヒュッテ

管理人さん

馬の背コースは笹が濃く歩きづらいとの情報を貰い冷水コースを辿る。登山道には多少の藪はあったが１時間チョットで馬の背との分岐。頂上まで４．５Ｋの表示だ。この辺りから熊の糞が道の真ん中に続出する。標高１２００ｍ付近から悠々たるダケカンバの巨木が林立。足元にはシラネアオイの群落だ。残念ながら咲き終わりで種をつけていたが、時期の頃はさぞや見事であろう。チラチラとエゾレイジンソウも見受けた。トリカブトに似ていて最初は黄色いトリカブトと勘違いした。

１３００ｍから段差のきつい急登にかわり、岩や木の根を掴んで這い上がる。望岳台を過ぎると大きい岩山の前岳を巻きながらコルに向かう。丈のある草木が道を塞ぎ、うっかり笹の根に乗ると足を滑らせ斜面に落ちそうだ。燦燦と陽ざしが降り注ぎ、汗がポタポタ額から落ちる。両手で草木を掻き分け、足元に気をつけながらトラバース。うっかりすると熊の糞を踏みそうだ。しかしまぁ、熊は何故道の真ん中でするのか不思議である。「やっぱり邪魔なものがないから腰を落としやすい？」と私が言ったら、ＣＬは「熊は立ったま
まだ」と言った。「ふ～ん。それじゃ何処でしても同じなのにねぇ。」疲れが出た身体に鞭打ちながら、こんな会話でもしていないと熊に出会いそうで恐い。それにしても一回でこんなに大量に出るなんて何と羨ましいことか！私の実感である。

比較的新しい熊の糞

正面が夕張岳

ユウバリソウ

大きなガマ岩の下を通って、前岳湿原木道になると景色が一変した。まだまだ頂上は遠くに見えるが、視界は開け花々の種類が多く眼を楽しませてくれるようになった。ウメバチソウ、ウサギギク、ナデシコ、フウロ、アズマキク。歓声をあげながら更に木道を辿って緩やかに登る。片面ガレ場のような吹き通しに出ると、「あった～！ユウバリソウ」が。ウルップソウによく似ていると言っていたので直ぐにユウバリソウだとわかった。既に咲き終わっていたが本当にウルップソウと見間違えるほどである。
これを見たくてこの山に来たが残念！咲く頃にもう一度来たいものである。傍らにはイワブクロとユキバヒゴダイの群落。ユウバリソウを見つけたので気分は上々。もう一山上り始めると今度は可憐な花が咲き競うお花畑だ。振り返ると、前岳湿原から伸び伸びとした広大な景観が広がっていた。この地形は、専門的には「ノッカー地形」と呼ぶそうだ。（良く分からないが・・・）

やっぱり山の上まで来ないと望めない展望だ。身体の疲れが一瞬に吹き飛ぶ。頂上直下で金山コースに合流した。頂上は、急峻なピークで東面からは上れない。途中にイワブクロが咲いていた。ひと上りで、鳥居を拝んで頂上着。ガスが出始め肌寒くなってきた。上着を一枚着こんで鳥居まで下りお昼とする。花三昧の山に大満足し下山はもう一度、花を確認しながら下る。前岳湿原下でラジオの音が聞こえ、オジサンが一人上って来た。やっぱり２時間、林道を頑張ったようだ。連れの奥さん（？）はリタイヤして下山したと単独で上って来た。頂上までの時間を聞いた。１．５Ｈと答えた。

シナノキンバイ

ユキバヒゴタイ

エゾノタカネツメクサ

キタキツネ

イワブクロ

吹き通し（正面が夕張岳）

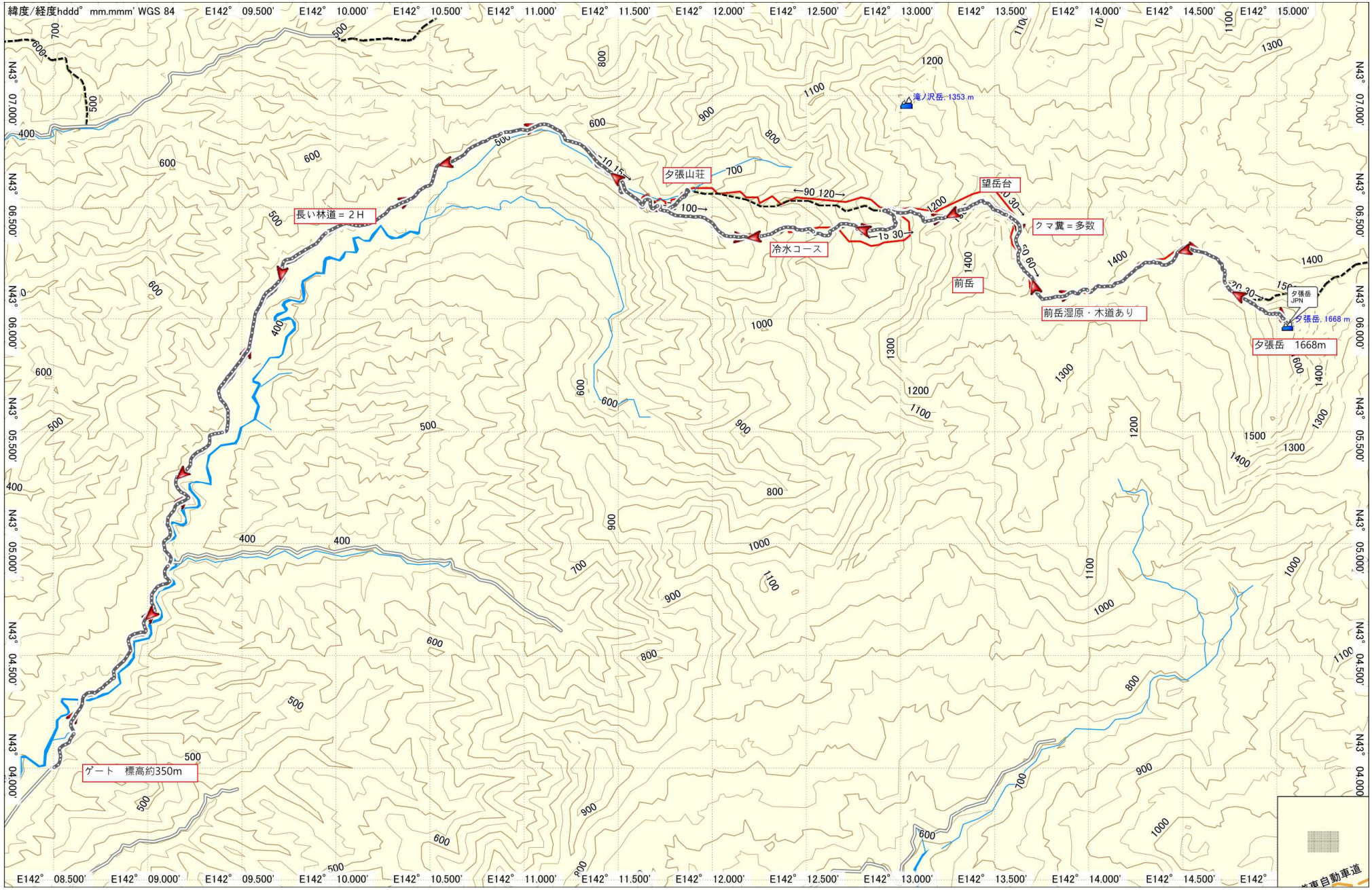
エゾシロチョウ

ガマ岩

観察した主な花

１．エゾアジサイ　２．ミソカワソウ（多い）　３．エゾホソバトリカブト
４．シナノキンバイ　５．エゾウサギギク　６．イブキトラノオ
７．ナガバノキタアザミ　８．ヒオウギアヤメ　９．シオガマギク
10. タカネニガナ　11. ミヤマリンドウ　12. エゾオヤマリンドウ
13. チシマフウロ　14. ハンゴンソウ　15. シロウマアサツキ（やたら多い）
16. ハイオトギリ（多い）　17. エゾウサギギク　18. ミヤマリンドウ
19. ミヤマアケボノソウ　20. チシマアザミ　21. ウメバチソウ
22. タカネナデシコ　23. サマニヨモギ　24. ユキバヒゴタイ
25. エゾタカネツメクサ　26. ユウバリソウ　27. ヨツバヒヨドリ
28. エゾニュウ　29. イワブクロ

「れいほう」９月号　おわり



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

マイコレクション

0 m 350 m 700 m 1050 m 1400 m

GARMIN.

MN TN -8.9° 2010/01/01